

第55期定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

- ・ 連結計算書類の連結注記表
- ・ 計算書類の個別注記表

(平成29年1月1日から平成29年12月31日まで)

「連結計算書類の連結注記表」及び「計算書類の個別注記表」につきましては、法令及び当社定款の定めにより、当社ウェブサイト（アドレス <http://www.koken-ltd.co.jp/ir/stock/meeting.html>）に掲載することにより株主の皆様へご提供しております。

連結注記表

連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記事項

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 1社

連結子会社の名称 SIAM KOKEN LTD.

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社SIAM KOKEN LTD.の決算日は9月30日であります。

連結計算書類の作成に当っては、同決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日前1か月の市場価格等の平均に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

② デリバティブ

時価法を採用しております。

③ たな卸資産

製品・仕掛品

総平均法による原価法（連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

商品・原材料

移動平均法による原価法（連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法（連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。また、在外連結子会社は定額法を採用していません。

ただし、当社は、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）ならびに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 7～50年

機械及び装置 5～9年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（5年）に基づいております。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額に基づき計上しております。

③ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

④ 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

⑤ 役員株式給付引当金

役員株式給付規程に基づく役員に対する当社株式の給付に備えるため、株式給付債務見込額を計上しております。

⑥ 株式給付引当金

株式給付規程に基づく従業員に対する当社株式の給付に備えるため、株式給付債務見込額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産・負債は在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

なお、金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしている場合の為替予約については振当処理を採用しております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

A ヘッジ手段：金利スワップ

ヘッジ対象：借入金

B ヘッジ手段：為替予約

ヘッジ対象：外貨建債権・債務及び外貨建予定取引

③ ヘッジ方針

当社は、社内で定めたデリバティブ取引に関する管理規程に基づき取引を行い、為替変動リスク、金利変動リスクをヘッジしております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

当社は、ヘッジ対象の相場変動又は、キャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。特例処理によっている金利スワップ及び、振当処理を行った為替予約については、有効性の評価を省略しております。

(6) その他連結計算書類作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

連結貸借対照表に関する注記事項

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額 9,047,926千円
 (2) 担保に供している資産 有形固定資産 4,669,360千円
 上記物件は、短期借入金1,400,000千円、1年内返済予定の長期借入金928,175千円、長期借入金3,312,825千円の担保に供しております。

- (3) 期末日満期手形等の処理は、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当決算期末日が金融機関の休日であったため、次の決算期末日満期手形等が決算期末日残高に含まれております。

受取手形	96,415千円
電子記録債権	7,270千円
その他	2,336千円

- (4) 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行5行と当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しております。これらの契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

当座貸越極度額及び	3,100,000千円
コミットメントラインの総額	
借入実行残高	1,400,000千円
差引額	1,700,000千円

連結株主資本等変動計算書に関する注記事項

(1) 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

	当連結会計年度期首 株式数	当連結会計年度増加 株式数	当連結会計年度減少 株式数	当連結会計年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	5,104,003	—	—	5,104,003
合 計	5,104,003	—	—	5,104,003
自己株式				
普通株式	89,007	—	500	88,507
合 計	89,007	—	500	88,507

- (注) 1. 当連結会計年度末の自己株式（普通株式）には、取締役株式給付信託（B B T）が保有する当社株式7,830株及び従業員株式給付信託（J - E S O P）が保有する当社株式22,870株が含まれております。
2. 普通株式の自己株式の株式数の減少500株は、従業員株式給付信託（J - E S O P）から市場への売却による減少200株、従業員株式給付信託（J - E S O P）から従業員への交付による減少300株であります。

(2) 配当に関する事項

① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年3月28日 定時株主総会	普通株式	126,154	25	平成28年12月31日	平成29年3月29日

(注)「配当金の総額」には、取締役株式給付信託（BBT）及び従業員株式給付信託（J-E SOP）が保有する当社株式31,200株に対する配当金780千円が含まれております。

② 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議予定	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年3月27日 定時株主総会	普通株式	151,385	30	平成29年12月31日	平成30年3月28日

(注)「配当金の総額」には、取締役株式給付信託（BBT）及び従業員株式給付信託（J-E SOP）が保有する当社株式30,700株に対する配当金921千円が含まれております。

(3) 連結会計年度末日における新株予約権に関する事項

	平成25年3月27日 第50期定時株主総会決議分
目的となる株式の種類	普通株式
目的となる株式の数	128,000株
新株予約権の残高	1,280個

金融商品に関する注記事項

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、市場環境や長期、短期のバランスを勘案して、必要な資金を調達しております。また、資金運用は安全性の高い短期預金等で運用し、投機的な取引は行わない方針であります。また、デリバティブ取引について、金利変動リスク及び為替変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行わない方針であります。

② 金融商品の内容及びそのリスク並びに金融商品に係るリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、当該リスクに関しては、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行っております。

投資有価証券については、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、当該リスクに関しては、上場株式等については、四半期ごとに時価の把握を行い、非上場株式等については、定期的に財務状況等の把握を行っております。

営業債務である買掛金及び未払金は、そのほとんどが2か月以内の支払期日であり、流動性リスクに晒されておりますが、当該リスクに関しては、手許流動性を一定レベルに維持することにより、流動性リスクを管理しております。

短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に運転資金と設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、流動性リスクに晒されておりますが、当該リスクに関しては、手許流動性を一定レベルに維持することにより、流動性リスクを管理しております。また、借入金については、金利の変動リスクに晒されているため、ヘッジの手段としてデリバティブ取引（金利スワップ）の利用を検討し必要に応じて実施しております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性評価の方法等については、前述の「連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記事項」に記載されている「4. (5) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

外貨建債権・債務及び外貨建予定取引については、子会社との取引によるものであり、為替変動リスクにも晒されておりますが、当該取引についてのヘッジ手段として、デリバティブ取引（為替予約）の利用を検討し必要に応じて実施しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、経理規程等に従い、経理部が決裁責任者の承認を得て行っております。また、デリバティブ取引の契約先は、いずれも信用度の高い大手金融機関に限定しており、相手方の契約不履行によるいわゆる信用リスクは殆どないと判断しております。なお、デリバティブ取引は社内規程等に従い、リスクヘッジ目的以外のデリバティブ取引は行わない方針であります。

③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、変動要因も織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成29年12月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

	連結貸借対照表 計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
① 現金及び預金	1,808,206	1,808,206	－
② 受取手形及び売掛金	2,412,829	2,412,829	－
③ 電子記録債権	1,012,324	1,012,324	－
④ 投資有価証券	100,574	100,574	－
資産計	5,333,934	5,333,934	－
① 買掛金	243,794	243,794	－
② 未払金	158,230	158,230	－
③ 短期借入金	1,400,000	1,400,000	－
④ 1年内返済予定の長期借入金	1,060,175	1,075,197	15,022
⑤ 未払法人税等	102,477	102,477	－
⑥ リース債務（短期）	53,816	52,811	△1,004
⑦ 長期借入金	3,442,825	3,437,790	△5,034
⑧ リース債務（長期）	46,568	46,394	△174
負債計	6,507,887	6,516,696	8,809
デリバティブ取引(*)	△32,786	△32,786	－

(*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については△で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
資 産

①現金及び預金、②受取手形及び売掛金、③電子記録債権

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

④投資有価証券

投資有価証券である株式の時価については、取引所の価格によっております。

負 債

①買掛金、②未払金、③短期借入金、⑤未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

④1年内返済予定の長期借入金、⑦長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

⑥リース債務（短期）、⑧リース債務（長期）

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規リース取引を行った場合に想定される料率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

・金利関連

(単位：千円)

種類	契約額等	契約額のうち 1年超	時価
金利スワップ	3,700,000	1,600,000	(注)

(注) 時価の算定方法

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)
非上場株式等	3,246

※非上場株式については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積るなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象とはしていません。

金銭債権の決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,808,206	—	—	—
受取手形及び売掛金	2,412,829	—	—	—
電子記録債権	1,012,324	—	—	—
合計	5,233,360	—	—	—

長期借入金及びリース債務の決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	1,060,175	871,950	1,300,700	410,700	214,700	644,775
リース債務	53,816	37,309	9,259	—	—	—
合計	1,113,991	909,259	1,309,959	410,700	214,700	644,775

賃貸等不動産に関する注記事項

当社は、賃貸等不動産を所有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため記載を省略しております。

1 株当たり情報に関する注記事項

1 株当たり純資産額 1,867円80銭

1 株当たり当期純利益 98円19銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 株主資本において自己株式として計上されている「取締役株式給付信託(BBT)」及び「従業員株式給付信託(J-E S O P)」に残存する自社の株式は、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

当連結会計年度における1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、「取締役株式給付信託(BBT)」は7,830株であり、「従業員株式給付信託(J-E S O P)」は22,974株であります。

重要な後発事象に関する注記事項

該当事項はありません。

追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式……………移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの……………決算日前1か月の市場価格等の平均に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの……………移動平均法による原価法

② デリバティブ等の評価基準及び評価方法

デリバティブ……………時価法

③ たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品・仕掛品……………総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

商品・原材料……………移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

貯蔵品……………最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……………定率法

（リース資産を除く）

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）ならびに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 7年～50年

機械及び装置 9年

無形固定資産……………	定額法 (リース資産を除く)	なお、ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（5年）に基づいております。
長期前払費用……………	定額法	
リース資産……………	リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。	

(3) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(4) 引当金の計上基準

貸倒引当金……………	債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
賞与引当金……………	従業員賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額に基づき計上しております。
役員退職慰労引当金……………	役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。
役員賞与引当金……………	役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。
役員株式給付引当金……………	役員株式給付規程に基づく役員に対する当社株式の給付に備えるため、株式給付債務見込額を計上しております。
株式給付引当金……………	株式給付規程に基づく従業員に対する当社株式の給付に備えるため、株式給付債務見込額を計上しております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

なお、金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしている場合の為替予約については振当処理を採用しております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

A ヘッジ手段：金利スワップ

ヘッジ対象：借入金

B ヘッジ手段：為替予約

ヘッジ対象：外貨建債権・債務及び外貨建予定取引

③ ヘッジ方針

当社は、社内で定めたデリバティブ取引に関する管理規程に基づき取引を行い、為替変動リスク、金利変動リスクをヘッジしております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

当社は、ヘッジ対象の相場変動又は、キャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。特例処理によっている金利スワップ及び、振当処理を行った為替予約については、有効性の評価を省略しております。

(6) その他計算書類作成のための重要な事項

消費税等の会計処理……………消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

貸借対照表に関する注記事項

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 8,879,046千円

(2) 担保に供している資産 有形固定資産 4,669,360千円

上記物件は、短期借入金1,400,000千円、1年内返済予定の長期借入金928,175千円、長期借入金3,312,825千円の担保に供しております。

(3) 期末日満期手形等の処理は、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当決算期末日が金融機関の休日であったため、次の決算期末日満期手形等が決算期末日残高に含まれております。

受取手形	96,415千円
電子記録債権	7,270千円
その他	2,336千円

(4) 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行5行と当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しております。これらの契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

当座貸越極度額及び	3,100,000千円
コミットメントラインの総額	
借入実行残高	1,400,000千円
差引額	1,700,000千円

(5) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債務	62,404千円
--------	----------

損益計算書に関する注記事項

関係会社との取引高

営業取引による取引高	322,325千円
営業取引以外の取引高	29,780千円

株主資本等変動計算書に関する注記事項
 自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

	当事業年度期首株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末株式数
自 己 株 式				
普通株式	89,007	－	500	88,507
合 計	89,007	－	500	88,507

- (注) 1. 当事業年度末の自己株式（普通株式）には、取締役株式給付信託（ＢＢＴ）が保有する当社株式7,830株及び従業員株式給付信託（Ｊ－ＥＳＯＰ）が保有する当社株式22,870株が含まれております。
2. 普通株式の自己株式の株式数の減少500株は、従業員株式給付信託（Ｊ－ＥＳＯＰ）から市場への売却による減少200株、従業員株式給付信託（Ｊ－ＥＳＯＰ）から従業員への交付による減少300株であります。

税効果会計に関する注記事項

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：千円)

繰延税金資産	
役員退職慰労引当金	172,788
賞与引当金	88,568
貸倒引当金損金算入限度超過額	3,071
減損損失	9,312
在庫評価損	73,870
未払事業税	9,945
株式給付引当金	9,145
役員株式給付引当金	3,112
その他	89,166
繰延税金資産小計	458,981
評価性引当額	△40,352
繰延税金資産合計	418,628
繰延税金負債	
圧縮記帳積立金	10,106
その他	8,355
繰延税金負債合計	18,462
繰延税金資産の純額	400,166

関連当事者との取引に関する注記事項

(1) 役員及び個人主要株主等

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
主要株主(個人)及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	酒井建物(株) (注)3.	被所有 直接3.31%	本社ビルの賃借	賃料の支払等 (注)1.	44,978 (注)2.	未払金	1,561
						前払費用	2,272

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

賃借料の支払については、近隣の取引実勢に基づいて、2年に一度交渉の上賃借料金額を決定しております。

2. 上記の取引金額は、消費税等抜きで表示しております。

3. 当社の主要株主酒井眞一が議決権の50%、酒井宏之が議決権の50%を直接所有しております。

(2) 子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社	SIAM KOKEN LTD.	所有 直接100.00%	役務提供 契約の締結 資金の援助 役員の兼任	経営指導料の受取 (注)1.	23,563 (注)3.	関係会社 未収入金	1,885
				資金の貸付 (注)2.	52,117 (注)3.	関係会社 長期貸付金	131,480
						1年内回収予定の関係会社 長期貸付金	69,200
			利息の受取 (注)2.	6,217 (注)3.	関係会社 未収入金	3,716	

- (注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等
経営指導料の受取については、役務提供契約を基礎として決定しております。
2. 資金の貸付については、市場金利を勘案して合理的に利率を決定しております。
3. 上記の取引金額は、消費税等抜きで表示しております。

1 株当たり情報に関する注記事項

1 株当たり純資産額	1,876円00銭
1 株当たり当期純利益	93円78銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 株主資本において自己株式として計上されている「取締役株式給付信託(BBT)」及び「従業員株式給付信託(J-E SOP)」に残存する自社の株式は、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
- 当事業年度における1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、「取締役株式給付信託(BBT)」は7,830株であり、「従業員株式給付信託(J-E SOP)」は22,974株であります。

重要な後発事象に関する注記事項

該当事項はありません。

追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。